

野川で遊ぶまちづくりの会からの提言

2012年6月24日

調布の里山環境を残そう

生き物と共生しながら自然の恵みをいかに活用しているかを実体験で学習できる環境が身近にあることの重要性を再考してください。佐須地域は、谷戸があり、谷戸を囲むように雑木林があり、谷戸から湧き出る湧水でゲンジボタルなどの生き物もいて、さらに湧水で田んぼが維持され、畑でさまざまな野菜が栽培されています。

森の恵みを生かすことができる雑木林を再現しよう

かつて雑木林であった谷戸周辺の森は薪をとらなくなり、コナラやクヌギが大木になっています。あらたにコナラやクヌギなどの幼木を育て、植え替えましょう。雑木林は、人が作りだした持続可能で身近な自然です。手つかずの自然林とは区別して積極的に利用するものです。



生き物のゆりかご機能を持つ田んぼを残しましょう

田んぼに水を引き入れ、田植えを終えるとさまざまな生き物が田んぼの中で繁殖を繰り返します。田んぼは高度な食物連鎖環境を毎年作り出すことができます。用水で生きるドジョウやメダカなどが旺盛に繁殖し、コサギなどがこれを捕食する環境になり、生物多様性に貢献することができます。

田んぼでの米作りは、米を数千年に亘って作ってきた日本ならではの持続可能な社会の最良の見本といえます。



野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

ホームページ <http://nogawa-tanbo.jp/>

